



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

佐藤 〇
鏡 〇
川 〇
中江 〇
渡辺 〇
三井

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30-13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 245775

会長	三井	健助
幹事	山口	篤之郎
会報委員	新藤	光一
	新田	幸雄
	安藤	定助
	安嶺	光吉

No., 1010 1979.6.5 (火) (晴) No.47

ウィンター紹介

半田茂弥君	石油配布	齋藤健治君	農業	} 鶴岡西R.C
石寺龍象君	生命保険	半田勇三郎君	生命保険	
長南朋養君	ガソリンスタンド	齋藤吉雄君	管材販売	} 温海R.C
本間留芳君	食料品小売	今野金一君	和食料理	
菅原鉄三郎君	雑貨小売			

誕生祝

<会員> 阿部襄君、石黒慶之助君、小野寺清君、高橋良土君、高岸三雄君、張紹淵君

<奥様> 安藤美智子様、金沢弘子様、宮沢幸子様

REACH OUT...

手をさし伸べよう...

■ 出席表彰

◎年間皆出席

10年間皆出席 手塚 林 治 君
8年間皆出席 市川 輝 雄 君
8年間皆出席 佐藤 順 治 君
3年間皆出席 丹下 誠四郎君

◎5月150%出席 1名

張 君

◎5月120%出席 2名

小松君、山口君

◎5月100%出席 45名

阿部(襄)君、安藤君、早坂(源)君、石黒君、五十嵐(三)君、市川君、板垣(俊)君、阿蘇君、秋野君、風間君、黒谷君、川村君、小池君、嶺岸君、三井(徹)君、三井(賢)君、三井(健)君、森田君、中村君、中江君、中野君、小野寺君、西海君、板垣(広)君、佐藤(忠)君、佐藤(順)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君、鷲田君、笹原君、新穂君、内山君、丹下君、菅君、鈴木(善)君、鈴木(弥)君、迎田君、菅原君、手塚君、富樫君、上野君、佐藤(元)君、吉野君、宮沢君、藤川君

会長・幹事報告

三 井 健 君

1. 交換学生ジョン君1ヶ月小遣、エテバリ君奨学資金を渡す。
2. 関川での家族会のスライド撮影 — 阿蘇君

山 口 篤之助君

1. 創立20周年記念式典のご案内

酒田R.C

と き S54年9月15日(土) AM10:30~PM2:30
登 録 AM10:00

と ころ 第1部 式典会場：酒田産業会館4F大ホール
第2部 「芭蕉の句碑」除幕披露一日和山公園

出席者数を6月20日迄

2. 年次大会のご案内

R.I第263地区

と き 10月27日(土) 28日(日)

と ころ 三重県松阪市総合体育館

登録料 会員¥ 20,000 お家族¥ 18,000 (晩さん会費を含む)

仮登録〆切 6月15日

創立当時の思い出

津 田 君

プログラム委員の方から、創立当時の思い出を語れと言う依頼を受けたのですけれども、私、即座に断ったんです。なぜかと言いますと、そんな思い出は何もないんです。断ったところ、プログラム委員いわく、順番だからやれと、こう言われたんです。

順番にやらなければ、ロータリーの四つの原則の一つである公平に反する。それでやむを得ず、うんと言った訳ですが、その時さすがに、プログラム委員は気の毒がったせい、ロータリーの話しでなくても、何んでもいいじゃないかと同情を受けた訳です。

しかし、月の例会ならいいんですが、ロータリーの創立記念の例会でロータリー以外の話をするのは如何にも場違いなことであって、会場に添わないので、今日はロータリーについての話をするんですが、創立当時の思い出なんて、何もないんですからそれを話すすれば、嘘を話したことになる。嘘を話すすれば、またロータリーの人から真実かどうかということになる。

従ってこっちの原則に忠実になるとすれば、こっちの原則に反せざるを得ない、という立場になって非常に困ったわけですけれども、私も20年余り、ロータリーの端くれでありますけれども、思い出とロータリー創立ではなくて、ロータリーの思い出ということについて話していきたいと思います。

創立は実際のこと言って、あれは小花先生と安藤さんの2人がやったことで、あとの20人は、列らび大名、言ってみれば員数に過ぎないんです。だから、この思い出を語れる人は2人しかいないんですよ。

私も、あつという間に20年になってしまいました、その間、私やめようと思った事が2回あったんです。1回目は、今から5年位前、15年立った時、ひさごで例会をやっていた時、劣等会員もいとこだからやめようかと、確かあれは5月の第3火曜日でしたか、来週退会届けを出そうと心の中で思っていました。そしたら、私の向いの2、3人向うにおった人が、チャーターメンバーが6人しかいなくなった。私はそれを聞きまして、何をこの男は感違っているんだ、チャーターメンバーが6人しか居ないなんて、そんな馬鹿なことがあるもんか、12、3人は居る筈だと、私、頭の中で思ったんです。そうしたところ、その人が名前を言うんですね。

小花先生、安藤先生、誰それ、誰それ、そして一番最後に私の名前をいうんですね。それは順序も、まさに正答なんです。それは小花先生はなんとと言っても第一人者である。安藤さんはNo.2なんです。しかも、私を一番最後にあげたというも(員数外?)

しかし、その話を聞いて、そんな馬鹿なことがあるかと思つてずーっと会場

を見回したところ、皆んな新顔なんです。皆んなどれも、これも新しく入ってきた人ばかりで、そのチャーターメンバーは6人しか居ないんです。本当だったんです。それを悟ったわけです。それを悟って私は愕然としました。

なぜ、愕然としたかといいますと、やはりロータリーは静かに着実に発展して、あの頃すでもう70人の会員がおったわけです。その発展している中味の中にチャーターメンバーも、もう4人もなくなった。わずかに4足らずの6人しか残っていない。ということの思い悟って、静かなる大きな変化ということで私は愕然としたわけです。愕然とすると同時に6人しかいない、これはもう貴重な存在だ！ やめてしまえば、この貴重な存在ではなくなってただの人になってしまうわけですね。

従って、これは滅多にやめられないぞ！ と言うふうに思って、まずやめるのを撤回したわけです。第1のピンチで、クラブから言えばチャンスだったかも知れませんが、ま！ それで、一応退会するのを思い止めた。

結局、6という数字は私は貴重価値を感じ、稀に少ない貴重価値を感じたわけです。それから暫らくたちますと、小花先生が無くなって海東与蔵さんが退会して4人しかいなかった、その4人しかいなかった時に貴重価値は何かという疑問を感じたわけです。

それが退会しようとする2回目のチャンス・機会です。いったい貴重価値ってどういう価値なんだろう。自分では、たった6人しかいなかったんだから6人のうちのひとりだ、4人のうちの1人だから、価値があるんだと、こんなふうに思っていました。いったい貴重価値ってなんだろう、本質はなんだろう、ということを感じまして、何んにもないんじゃないか。例えば50円の硬貨があります、その穴が側に開いているのがあります。

あれは、造幣局がそういうのは作らないんです。やはり中には数が多いものですから、横に穴が開いている50円硬貨が出回るわけです。それが、非常に価値があるんです。欲しい人のところへ持っていったら、十何万でも売れる。そうすると、その横に穴が開いている50円硬貨、なにも価値が有る訳ではないですよ。それは珍しいから、そうすると貴重価値なんて自分で喜んでおったけれども、そんなものは何にも価値がないんだ。今の横に穴が開いている50円硬貨と同じことだと言うことに気付きまして、やっぱり、僕のように出席率が悪くて、会の出席率を下げればかりいるような者は、そういう劣等感はやめようじゃないか。やめた方が会の為がいいんだということを思ったわけで、これが第2回目のピンチです。

こんな風に思った時、私ちょっと、いったい劣等会員とは何だ、ここに列んでいる雑壇に列んでいる会員の方は、自他共に許す優秀会員で、優秀とか、劣等とか、いったいどういうことかと思ったわけです。どこの人間の集まりにも、優秀とか、劣等とか出るんですよ。学校だってご覧なさい、小学生だって優等生と劣等生とがいるでしょ。大学だって同じですよ。いや、学校ばかりでなく、社会に出てからも同じ大学から、ある会社に入った、最初のうちは判りません

よ、やはり2、3年経つと、優秀な者は課長になり、部長になり、取締役或いは、社長になるかも知れない。劣等社員はそれに反して、役付きにつかないままに停年退職ということになっていく。それでは劣等社員は、会社の為に何もならなかったか、というと、そうではない。劣等社員だって会社の為にコツコツと働いて会社の為にかかなりの利益を上げたんじゃないか。

すなわち、優秀とか、劣等とか、ぜったい的なものではなく、相対的な資格の問題なのであります。僕のような劣等会員がいなければ、優秀会員はいないわけですよ。たまたま、鶴岡は優秀会員が多すぎるんですよ。だから私は他のクラブの会員であれば、優秀会員になれたかもしれない。そういうことを考えた時に、私、前に昔、(徳川夢声)という人が居たんですけれども、若い人は知らないかも知れませんが、夢声の話聞いたことが有るんです。その夢声の話曰く、座談、話術の大家といわれる人で、その夢声がこういうことを言ったんです。

話しをするについて大事なことは何か。間、あいだと書くんですね。夢声は例をとって、間というのは、話しに必要なばかりでなく、絵なんかもそうだ。日本画をご覧なさい、日本画には必ず、空白の部分がある。あれが、間である。その絵が優秀であるか、そうでないかは、“間”によって決まる。そういうことを言うんですね。

なにも日本画ばかりでなく、油絵もそうです。油絵ならバックが“間”で有り、モナリザの絵のバックを思い出して下さい。あれは薄い円形をバックにして、従ってあのバックがあるからモナリザの微笑、神秘性が生きて来ている。もしあのバックが濃い色で、茶色でもいい、濃い色でバックを塗ったら、どういうことになるか、あの神秘性は大部分無くなってしまいうわけです。

こういうことを私、思い出したわけです。従って、なる程そういうものですよ。ちょうど、その思い出した頃、鶴岡で参議院の選挙があった。私、ちょうど仕事が一段落したので、参議院の立ち合い演説会を聞きに行っただけです。私が聞きに行ったらある候補の演説がすぐ始まった。ずっと聞いてみますと、兎に角縦板に水と言いますか、とうとうとしゃべるんですね。あれは持ち時間が25分間位からだと思いますが、非常に一点の淀みもなくしゃべる。非常にうまいんですね。勿論終って拍手したんです。終ってからは、はてな、あの男は何をしゃべったんだろうかと思ひ出してみただけですけど何しゃべったのか、私、頭の中に残っていないんです。

それはなぜかということを考えてみますと、あの演説には“間”がない、“間”がないのは、間抜けという言葉で、切角あれだけ上手にしゃべったに拘らず、“間”が無いために印象に残らない。ハハハ成る程夢声の言うのは本当だなと私は痛感したことがある。成る程、その候補者にしてみれば、自分のしゃべりたいことは沢山ある、制限時間は25分だ、さ、これもこれも—— — といって盛り沢山になって一生懸命しゃべったんですけれども、そういうふうに、適当に“間”を置かない為に、その効果というものは半分以上に下がったというふう

に感じた訳です。選挙で演説して、票を集めるには私は3つの段階が必要だと思います。1つは“理解”、聴衆を理解させるということが大事だ。これは難しいことを言って聞いておった聴衆が、何が何んだか判らないんじゃ、これは理解の段階にも達していない。理解の第1段階まで達しても、まだ、そう票は集りません。

第2段階は、これは“共鳴”です。聴衆が、その演説を聞いていて、あ！ 成る程そうだという共鳴の段階まで行けば、これはかなり票が入るんです。しかし、それでも未だ駄目だ。いわゆる第3段階まで進まなければ、第3段階とは何か、それは感動です。感動の段階まで進んだら、その聴衆は全部その候補者に投票しますよ。立ち合い演説で聞いたその候補者は、第2段階の中頃までしか進まないんじゃないか、というふうに思っておったんですが、やはり私の予想は適中して、その候補者は落選でした。そういうふうに“間”というものが大切だということを私はつくづく感じた訳ですが、劣等会員、これも言ってみれば“間”のような役目をしているのである。

この“間”というのは、何も無いんです。演説でいえば言葉と言葉の中間で、いわゆる何にも無い段階ですね。日本画の場合もそうでしょ、空間は何んにも絵具は塗っていない。しかしその空間によって課題、モチーフが生きて来る。

従って、私のような劣等会員は余り存在価値は無いこと。少なくとも、スピーチでいう“間”の役目、絵でいうバックの役目ぐらいはしているのではないか。こういうふうに考える訳で、しかしその“間”が余りにも長ければ、これは又全体の調和を損なうことは明らかで御座居ますので、もし、私の出席率が、その数、減るようで、その為に会全体の出席率を低下してしまうということになったら、潔く退会するつもりで御座居ますけれども、未だ幸いに鶴岡ロータリークラブの出席率は中間よりも少し上の方になっておりますので、未だ未だ安心しておりますが、これより下がったら私は責任を自覚して退会したいと思います。その節は余り止めないように。

出席報告

本日の出席	会員数	70名	欠席者	阿部(与)君、阿部(襄)君、早坂(徳)君、巽斗君、半田君、玉城君、風間君、高橋(耕)君、石原君、三井(徹)君、三浦君、野村君、斎藤(栄)君、板垣(広)君、斎藤(利)君、佐藤(衛)君、鷺田君、笹原君、新穂君、上野君、諸橋君
	出席数	49名		
	出席率	70.00%		

前回の出席	前回出席率	70.00%	メア 1ツ クラブ	佐藤(忠)一酒田東R.C 佐藤(友)一立川R.C 笹原君一仙台R.C 市川君、玉城君、風間君、野村君、中野君、鷺田君、宮沢君一鶴岡西R.C 高岸君一外国R.C
	修正出席数	60名		
	確定出席率	85.71%		